

令和7年度
(2025 年度)用

東小岩小学校

社会 評価規準【4年】

小単元の指導・評価計画

単元の導入（第1 単元オリエンテーション）

1 時間／P. 6～9

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	知っている都道府県を地図帳でたしかめましょう。 (1 時間)	○地図帳を活用し、自分が住んでいる県の位置を確認する。 ・自分が住む県は日本のどのあたりか ・近くにはどのような都道府県があるか ○地図帳や各種資料を活用し、いろいろな都道府県の名所や特産品について調べたことを発表したり、知っていることを紹介したりする。 ・地図帳には、名所の名前や特産品を示したイラストなどがたくさんついている。 単元のめあて わたしたちが住む県の位置や特色、各地の人々の暮らしについて、地図や資料を使って調べてみましょう。	◆我が国が 47 の都道府県で構成されていることを確かめる。 ◆まなび方コーナー「地図帳を使ってみよう」を参照し、地図帳の基本的な使い方を再確認する。 ◆QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用するなど、都道府県の位置や名称に自然に関心をもたせようにしたい。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「47 都道府県の名称や位置、それぞれの名所や特産品などに注目して、都道府県の様子に関心を高めているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	①②日本地図を広げて P. 10～15 日本の都道府県について、それぞれの名前と場所を調べ、白地図にまとめてみましょう。 (2 時間)	○教科書P. 10～11の日本地図を見て、自分が住んでいる県がどのあたりにあるか確認する。 ・宮城県は、東北地方にある。 ・岩手県、秋田県、山形県、福島県に囲まれている。 ○日本の都道府県の数や構成を確認する。 ・日本には47の都道府県がある。 ・都は東京都、府は大阪府と京都府、道は北海道である。 ○P. 10～15の都道府県カードを使いながら、三つの日本地図や地図帳などを活用して、各都道府県の名称と位置について調べ、白地図にまとめる。 ・八つの県と接しているのは何県で特産品は何か。 ・いちごの生産が盛んな関東地方の県は栃木県だね、県庁所在地はどこかな。 ・島の数が一番多いのは長崎県だね、確かに地図でみると島が多いね。 わたしたちの県のほかにも、たくさんの都道府県があり、日本は47都道府県によって構成されている。 ①②	◆自分が住んでいる県やそのまわりを確認しながら、都道府県が市町村より大きい規模の地域の単位であることを捉えさせたい。 ◆自分が行ったことある都道府県（場所）や食べたことのある特産品など、児童の体験をできるだけ取り上げ、意欲的に学習活動に取り組ませたい。 ◆白地図に名称などを記入させることで、児童に名称と位置をより主体的に確認させたい。 ◆QR コンテンツ「ビンゴ！都道府県かるた」を活用するなど、楽しみながら都道府県の位置と名称を学べるように工夫したい。	[知技] 都道府県カード（教科書P. 11～15）への記入内容や白地図の記述内容から、「必要な情報を集め、読み取り、47都道府県の名称と位置について理解しているか」を評価する。

目標

都道府県の様子について、我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、県の様子を捉え、地理的環境の特色を考え、表現することを通して、自分たちの県の地理的環境の概要を理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などについて地図帳や各種の資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、県の様子を理解している。	①我が国における自分たちの県の位置、県全体の地形や主な産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見いだし、県の様子について考え表現している。	①県の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、自分たちの県の地理的環境の概要を理解している。	②県の位置や県全体の地形、主な産業、交通網や主な都市の位置などの情報を比較・関連、総合して県の地理的環境の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本の中の宮城県 P. 16～17 わたしたちが住む宮城県について話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○地図帳を活用し、自分たちの県や周囲の様子で知っていることを話し合う。 ・宮城県は、東北地方の太平洋側にある。 ・宮城県は、岩手県と秋田県、山形県、福島県に囲まれている。 ○自分たちの県のどのようなことを調べたいか、話し合い、学習問題をつくる。	◆資料1「地図帳の宮城県」や地図帳などを活用して、県の位置や県内の様子に着目させる。 ◆地形、主な都市の位置、交通網、産業に着目させ、学習問題をつくるようにしていく。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「県の位置、地形や産業の分布、交通網や主な都市の位置などに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 わたしたちの県の地形や都市の位置、交通、産業などには、どのような特色があるのでしょうか。		
調べる	②学習の進め方 P. 18～19 学習問題をつくり、学習の進め方をかくにんしよう。 (1 時間)	○小単元の「つかむ→調べる→まとめる→いかす」という学習の流れを確認する。 ○学習問題について、予想を立て、実際に見学したり、インターネットやガイドブック、写真や地図、県庁への手紙やメールなどで調査したりして、県について調べる計画を立てる。(5時間) <調べること> ・県の地形 ・ 県の土地利用の様子 ・県の市や町、村 ・県の交通の広がり ・ 県の主な産業	◆問題解決的な学習の進め方について学ばせる。QRコンテンツ「学習の進め方をたしかめよう」の動画も活用できる。 ◆調べ方やまとめ方についても指導する。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自分たちの県の地理的環境の概要について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
	③宮城県の地形 P. 20～21 宮城県では、どのような地形が見られるのでしょうか。 (1 時間)	○県の衛星写真や写真から県の地形の様子を観察し、気づいたことを発表し合う。 ・山地や平野、沼、川などがある。 ・まっすぐな海岸と入り組んだ海岸がある。 ○地勢図や断面図を読み取り、県の地形と特色を考え、話し合う。 ・県の西側に、蔵王山など高い山地がちなっている。 ・県の中央や仙台湾のまわりは、仙台平野など低く平らな土地が広がる。 宮城県の地形は、西側に高い山がちなり、中央に広く平らな土地が広がり、東側に海に面した海岸がある。 ③	◆ことば「地形」を確認し、県内にみられる主な地形を読み取らせたい。 ◆「まなび方コーナー」や QR コンテンツ「地勢図を読み取る」を活用し、地勢図の読み取り方をおさえる。地勢図と断面図を比べることで、県内の土地の高さの広がり方に着目させ、特色を捉えさせたい。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県全体の地形の様子について理解しているか」を評価する。
	④宮城県の土地利用の様子 P. 22～23 宮城県では、どのように土地が使われているのでしょうか。 (1 時間)	○県内の写真や土地利用図などを見て、気づいたことを発表し合う。 ・県内の土地利用は、森林や田、畑が多い ・県内には、市街地や牧場、かじゅ園もある。 ○地形とのつながりに着目し、県の土地利用の特色を考え、話し合う。 ・県の中央や仙台湾のまわりの低く平らな土地では田や市街地が広がっている ・山地や海岸は森林が多く、観光にも生かされている。 宮城県の土地利用は、低く平らな土地には、市街地や田が広がり、山地や海岸には森林が多く広がっている。 ④	◆写真を活用し、土地利用図に示される土地利用それぞれについて、イメージしやすくする。 ◆P. 21 の地勢図と比較しながら、地形とのつながりを考えさせたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「県の土地利用の特色を、地形との関係から考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤宮城県の市や町、村 P. 24～25 宮城県には、どこにどのような市や町、村があるのでしょうか。 (1 時間)	○写真や地図をもとに、自分の住むまちや県内の市町村について気づいたことを発表し合う。 ・県庁所在地は仙台市で一番人口が多い。 ・観光で有名な市町村もある。 ○県内の主な市町村の名称、位置、特徴などを調べ発表し合う。 ・県の北東にある石巻市は、昔から港が栄えていた。 ・白石城のある白石市は、仙台から南へ40 kmくらい離れている。 宮城県は県庁所在地の仙台市を中心に、北部に大崎市、海側に石巻市や気仙沼市、南部に白石市などの多くの市町村からなっている。 ⑤	◆行ったことのある市町村を取り上げるなど、市町村という地域の単位を意識づけたい。 ◆ここでは、県内の主な都市に着目し、調べさせたいため、人口の多い上位三つの市や県内の地域的バランスのとれた市を選択させたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県内の市町村や主な都市の位置について理解しているか」を評価する。
	⑥宮城県の交通の広がり P. 26～27 宮城県の交通は、どのように広がっているのでしょうか。 (1 時間)	○県内の交通機関を調べ、発表しあう。 ・東北新幹線 ・東北本線 ・東北自動車道 ・仙台空港 ・仙台塩釜港 ○宮城県の交通の広がり方について、考え話し合う。 ・多くの交通路が仙台市や県内の主な都市に集まっている。 ・遠くの地域や外国ともつながっている。 宮城県には、平地や海沿いに、新幹線や高速道路、空港や港が多くあり、都市を中心に交通が発達している。 ⑥	◆それぞれの交通は、どこどこを結んでいるのか、地図帳などを活用して調べさせたい。 ◆県内の交通路と主な都市との関係を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県の交通網の広がりについて理解しているか」を評価する。
	⑦宮城県の主な産業 P. 28～29 宮城県には、どのあたりにどのような産業があるのでしょうか。 (1 時間)	○県内には、どのあたりにどのような産業があるか地図帳や資料、県庁の人への聞き取りなどで調べ、白地図にまとめ、産業の特色について話し合う。 ・三陸海岸は水産業 ・仙台平野は米づくり ・高速道路沿いは自動車づくり ・大きな都市の仙台市は商業や情報産業 ・伝統的な産業は、こけしや雄勝すずり 宮城県では、地域それぞれの特徴に合わせたさまざまな産業がある。また、伝統的な産業も多い。 ⑦	◆県の産業関連部署などからパンフレットなどの資料を取り寄せたり、インタビューをさせてもらったりする。	[知技①] 白地図の記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、県の主な産業の分布や様子について理解しているか」を評価する。
	⑧宮城県の特色をまとめる P. 30～31 調べたことをもとに、宮城県の特色について話し合い、パンフレットをつくりましょう。 (1 時間)	○これまでに調べたことをもとに、県の特色について話し合う。 ・広い仙台平野を生かした米づくり。 ・仙台市を中心に市街地や交通が集まり、さまざまなところに移動しやすい。 ・西側の山地と東側の海岸が、自然豊かで伝統産業や観光業に生かされている。 ○タブレット端末などを活用し、県の紹介パンフレットをつくる。 ・宮城県は、山と海に囲まれた米づくりが盛んな県です。 ・宮城県は、自然豊かで仙台を中心に都市や交通網が広がっている県です。 宮城県は、西から東にかけて、山地、平地、海岸と違いがあり、仙台市を中心に都市や交通が広がっており、地域の特徴を生かした産業がある。 ⑧	◆「仙台平野」（地形）「田」（土地利用）「米づくり」（産業）など、これまで調べたことを関連させ総合的に特色を考えさせたい。 ◆紹介パンフレットは、タブレット端末等で作成するほか、紙に直接地図や写真を貼り作成することもできる。	[知技②] 紹介パンフレットの記述内容や発言内容から、「調べたことをまとめて、自分たちの県の地理的環境の概要を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 紹介パンフレットの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、県の位置や県全体の地形、主な産業、交通網や主な都市の位置などの情報を総合して県の地理的環境の特色を考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	だれが何をしているか、絵を見て考えてみましょう。 (1時間)	○教科書のイラストを見て、まちの中で、住みよい暮らしをつくるためのしくみや人々の働きについて探し、これらの事業について話し合う。 ・ まちには、水道やごみの処理に関わる仕事をしてくれる人たちがいるから、わたしたちが生活できる。 ----- 単元のめあて わたしたちのまちの健康で住みよい暮らしをささえているしくみや人々の働きを調べてみましょう。	◆ キャラクターのせりふから、働いている人たちに注目させる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「人々の健康や住みよい暮らしを支えている仕組みや人々の働きなどに着目して、学習の見通しをもっているか」を評価する。

2ー①水はどこから

目標

飲料水を供給する事業について、供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現することを通して、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基に自分たちに協力できることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。	①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。	①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。	②飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付け、飲料水の供給のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に、節水や水を汚さないために自分たちが協力できることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①わたしたちが使う水の量 P. 34～35 わたしたちは、毎日どのくらいの水を使っているのでしょうか。 (1 時間)	○日頃の水を使う場面や使う量について話し合う。 ・学校ではプールや手を洗う時に使う。 ・家では料理や洗濯に使う。 ・農家や工場、消火でも使う。 水は、生活や産業のさまざまな場面で使われる大切な資源であり、わたしたちは、毎日の生活の中で大量の水を使っている。 ①	◆水を使う様々な場面を想定して話し合う。 ◆一人当たりだけでなく地域全体の量も確認して大量の水を使用していることをおさえる。 ◆学習の導入として、QR コンテンツ「学習のはじめに見てみよう」を活用することもできる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「飲料水の使用と供給の現状について理解しているか」を評価する。
	②じゃ口の水が通る道 P. 36～37 水がどこからどのように送られてくるのかを考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○じゃ口の水が通る道について話し合い、学習問題をつくる。 ・水道管を通っている。水道管はどこつながっているのか。 ・川から水を取っている ・浄水場という施設できれいにしていると聞いたことがある。 学習問題 わたしたちの生活に欠かせないたくさんの水は、どこでどのようにしてきれいになり、送られてくるのでしょうか。	◆学習問題は端的に作成し、予想や計画について、根拠をもって丁寧に話し合うようにしたい。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「水の供給の仕組みや経路に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立てる。 ・調べること ・調べ方 ・まとめ方		[態度①] 発言内容や学習計画表の記述内容から、「飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④きれいな水をつくる P. 38～39 じょう水場では、どのようなことをしているのでしょうか。 (2 時間)	○浄水場を見学して、その働きについて話し合う。 ・浄水場では、急速ろ過と緩速ろ過の二つの方法で水をきれいにしている。 ・1日に10万5千 m^3 の水をきれいにする ・24時間体制でコンピューターで管理して、安全できれいな水をつくっている。 浄水場では、いろいろな設備を使って川の水をきれいにし、毎日安全できれいな水をつくっている。 ③④	◆大まかな設備の名前とその役割をおさえる。 ◆たくさんの設備があり、それを管理している人がいることに気づくようにする。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、浄水場で水をきれいにし、くみについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑤⑥安全できれいな水をつくるために P. 40～41 じょう水場では、安全できれいな水をつくるために、どのようなくふうをしているのでしょうか。 (2 時間)	○水質検査をしている吉岡さんの話から、浄水場で働いている人の願いや工夫について話し合う。 ・ 毎日様々な検査をしている。 ・ 微生物がいないかなど、検査はとても細かい。 ・ 金魚を使った検査や顕微鏡を使った検査をしている。 ・ 浄水場できれいになった水は、配水池に届き水道管を通して届く。 浄水場では、安全できれいな水をつくるために、いろいろな工夫をしている。安全できれいな水は、たくさんの人の力によって守られている。 ⑤⑥	◆浄水場で機械によって単にきれいにするだけでなく、そこで検査や管理をして働く人の思いについても考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自分たちがふだん飲んでいる水は、浄水場で働くたぐさんの人々のくふうや願いによって守られていることについて理解しているか」を評価する。
	⑦金沢市の水道のうつり変わり P. 42～43 じょう水場ができる前は、市内の水はどのように使われていたのでしょうか。 (1 時間)	○前時までの学習から、金沢市の水道の移り変わりについて疑問をもち調べる。 ・ 安全でおいしい水ができる前はどのようにしていたのだろう。 ・ 90年ほど前までは、井戸や用水の水をそのまま使っていた。 ・ 人口が増えるにつれて水が足りなくなった。 ・ 水質の問題で病気が起こった。 浄水場ができる前は、水が足りなくなったり、病気が起こったりしていた。浄水場などの水道施設ができて、安全できれいな水のおかげで、わたしたちは健康な生活が送れるようになった。 ⑦	◆水質検査の役割から、それがなくなったらどうなるかを予想し、話し合わせる。 ◆安全できれいな水は、私たちの生活の向上を支えている。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「金沢市の水道の歴史的背景や、上水道の整備が自分たちの健康な生活の向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。
	⑧ダムや水源の森の働きを調べる P. 44～45 ダムやまわりの森には、どのような働きがあるのでしょうか。 (1 時間)	○過去の水不足の様子を調べ、現在の水不足が起こらないためのしくみについて調べる。 ・ 過去に水不足になったことがあった。 ・ 水不足にならないよう、県と市が協力して、他の川やダムから水を供給するしくみをつくった。 ・ 水源の森は、ダムと同じように水を蓄えることができる。 ダムは大量の水を貯め、水道で使う川の水の量を調整している。また森林には水を蓄える働きがあり、水源の森を守る取り組みが行われている。 ⑧	◆ダムや水源林の働きを資料から十分に予想させ、話し合う。 ◆県内外の人と協力していることをとらえさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、ダムや水源林の働きや、水を安定して供給するために県内外の人が協力し合っていることについて理解しているか」を評価する。
	⑨⑩水の流れをまとめる P. 46～47 調べたことをもとに、水はどのようにして送られているのか話し合い、まとめましょう。 (2 時間)	○これまでに調べたことを話し合う。 ・ 浄水場では水をきれいにしていた。 ・ 昔はきれいな水は当たり前ではなかった。 ・ わたしたちが使える水には限りがあるから、大切に使うていかなければならない。 ○水の経路や施設の働きを図にまとめる。 飲料水を供給するための事業は、安全で安定的に供給する仕組みがつくられ、計画的に改善が進められており、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っている。 ⑨⑩	◆それぞれの施設の役割と経路を結び付けて考えるようにする。 ◆水が届くまでに、人々の願いや思いがあることにも着目するようにする。	【知技②】 図の記述内容から、「調べたことをまとめて、水道事業は水を安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
いかす	⑪大切な水のために P. 48～49	○学習してきたことを生かして、大切な水の使い方について話し合い、自分にできることを考える。 ・節水をする。 ・水を再利用する。 ○地域の環境を守る活動に参加する。 ・学校のそばのビオトープは、浄水場と同じ犀川の水を使っている。 ・ビオトープの環境にも、きれいな水が大切だ。 ・安全できれいな水をいつまでも使い続けられるよう、節水など自分にできることをしていきたい。 生活に欠かせない安全できれいな水をいつまでも使い続けるためには、節水したり水を大切に使ったりするなど、身のまわりの環境のために自分たちができることを考えることが大切である。 ⑪	◆水をきれいにするしくみだけでなく、環境についても目を向けられるようにする。 ◆限りある水を大切に使うことで自分たちにもできることがあることを考えさせる。	【態度②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、水を大切に使うために今の自分にできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 ノートの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、節水や水を大切に使うなど、身のまわりの環境のために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現しているか」を評価する。
	かぎりある水を使い続けるために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (1 時間)			

目標

廃棄物を処理する事業について、処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業の果たす役割を考え、表現することを通して、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、学習したことを基にごみの減量のために自分たちが協力できることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、廃棄物の処理のための事業の様子を理解している。	①処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見出し、廃棄物の処理のための事業の様子について考え表現している。	①廃棄物を処理する事業について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などにまとめ、廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。	②廃棄物を処理する仕組みや人々の協力関係と地域の良い生活環境を関連付け、廃棄物の処理のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、ごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基にごみを減らすために、自分たちが協力できることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①ごみの種類と分別 P. 54～55 家では、ごみをどのように出し、出されたごみはどのようにしゅう集されるのでしょうか。 (1 時間)	○家庭のごみの出し方を話し合う。 ・ごみを種類ごとに分けて出している。 ・種類によって出す日が違う。 ○種類別のごみの量のグラフからわかることを話し合う。 ・燃えるごみが一番多い。 ・ごみの分別は大変だけど、とても大切なことだと思う。 ○ごみステーションの看板を調べ、ごみを出すときのきまりを話し合う。 ・看板には、ごみを出すときに注意することが書いてある。 ・種類ごとに出す曜日が決まっている。 ・ごみの出し方には細かいきまりがある。 ごみは、決められた日に分別して出されている。 ①	◆ごみの分別に気づかせるとともに、なぜ種類別に出すのかに疑問を持たせる。 ◆燃えるごみを中心に、出されるごみの量が多いことから、分別が必要であることに気づかせる。 ◆ごみステーションの看板に書かれているきまりを読み取らせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、家庭から出されるごみに着目し、「ごみは決められた日に分別して集められていることを理解しているか」を評価する。
	②ごみのゆくえ P. 56～57 わたしたちが出したごみのゆくえを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○ごみ収集の様子を見た経験を発表し、P. 56～57の写真から、集められたごみのゆくえを調べる。 ・ごみは後ろが大きく開く収集車で集められている。 ・ごみは清掃工場やリサイクルセンターに収集車やトラックで運ばれていく。 ○ごみの処理について疑問に思うことを話し合い、学習問題をつくる。 ・清掃工場やリサイクルセンターに運ばれたごみは、どのように処理されるのだろうか。 ・処理の方法は種類ごとに違うのだろうか。 学習問題 分別して出され、しゅう集されたごみは、どのようにしてしよりされるのでしょうか。	◆収集されたごみがどこにどのように運ばれるのかを、種類別に考えさせる。 ◆収集作業員の話から、分別の必要性に着目し、処理のしかたに対する疑問を持たせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「ごみ処理のしかたに疑問を持ち、問いを見出しているか」を評価する。
		○学習計画を立てる。 ・清掃工場を見学して、燃えるごみの処理のしかたについて調べる必要がある。 ・調べたことはカードにまとめ、友だちに発表する。	◆「疑問を話し合い学習問題をつくる」「予想し学習計画を立てる」という問題解決的な学習過程を辿らせる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「ごみの処理事業について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④もえるごみのゆくえ P. 58～59 せいそう工場では、ごみをどのようにもやしているのでしょうか。 (2 時間)	①清掃工場を見学して、わかったことをノートに整理する。 ・大きなクレーンや焼却炉がある。 ・1日に約600トンのごみを燃やしている。 ・コンピューターを使い、24時間燃やしている。 ②ごみをもやしてしよりする理由を考え話し合う。 ・燃やすとかさが50分の1ほどになる。 ・においや病気の原因を取り除くことができて衛生的だ。 清掃工場では、コンピューターを使い、環境に配慮しながら 24 時間ごみを燃やし、そのことで、ごみのかさがへり衛生的な処理につながっている。 ③④	◆見学だけでなく、清掃工場の人の話や、入手したパンフレットなどから、清掃工場のしくみを総合的に理解させる。 ◆清掃工場働く人の話を参考に、燃やして処理することが、自分たちの衛生的な生活につながっていることを考えさせる。	【知技①】 見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、清掃工場の燃えるごみを処理するしくみや工夫について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤⑥もやすときやもやした後のくふう P. 60～61 ごみをもやすときやもやした後のくふうには、どのようなものがあるのでしょうか。 (2 時間)	○ごみを燃やすときの熱や燃やした後の灰の利用について調べる。 ・熱は温水プールや発電に利用されている。 ・灰は、熔融スラグになり、道路工事などに利用される。 ○再利用できないごみの処理について調べる。 ・再利用できないごみは処分場に運ばれている。 ・いっぱいになった処分場は市民のための施設になっている。 ○「那須さんの話」を基に、ごみを燃やすときや燃やした後の工夫や課題を考える。 ・処分場の利用には、限りがあり、流れ出る水をきれいにして川に流す必要がある。 ・ごみは燃やして終わりではなく、燃やすときの熱や燃やした後の灰も再利用するなど工夫されている。 ・環境にもとても配慮されている。 ごみを燃やしたときに出る灰や処理熱は、適切に処理されたり、有効に利用されたりしている。 ⑤⑥	◆灰の再利用や焼却熱の有効活用は計画的に行われ、地域の人々の生活環境の維持と向上に役立っていることに気づかせる。 ◆処分場の選定に関わる課題についても触れておくとよい。また、処分場の問題に関連して、不燃化物の処理について調べようとする意欲を高めた。	〔態度①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「これまでの学習をふり返り、さらに調べるべきことを考え、資源化物や燃えないごみの処理について調べる見通しをもっているか」を評価する。
	⑦⑧人々の協力でごみが生まれ変わる P. 62～63 そだごみやしげん化物は、どのようにしよられているのでしょうか。 (2 時間)	○資源化物や粗大ごみの処理についてリサイクルプラザを見学して、調べる。 ・資源化物は選別され、種類ごとの再生工場に送られる。 ・ペットボトルは服やペットボトルなどに、使える粗大ごみは修理して再利用される。 ・リサイクルを進めるには、資源化物を集めるための協力が必要だ。 ○身のまわりにリサイクルされて使われているものがないかを考え、発表して話し合う。 ・自転車、服、たんす ・教科書やノートなど 集められた資源化物や粗大ごみは再利用され、資源の節約に役立っており、リサイクルを進めるには人々の協力が必要である。 ⑦⑧	◆リサイクル施設の見学や調査を通して、ごみを資源化することは資源の有効利用につながることを考えさせる。 ◆町内会や、スーパーマーケットの資源化物の回収の取組で知っていることを発表させる。 ◆教室にある物や自分の持ち物で、リサイクルされているものがあるか確かめる活動を取り入れるとよい。	〔知技①〕 見学の記録や発言内容から、「必要な情報を集め、粗大ごみや資源化ごみを再利用するしくみ、人々の協力の大切さなどについて理解しているか」を評価する。
	⑨⑩ごみしよりのうつり変わりと課題 P. 64～65 ごみしよりはどのようにうつり変わり、新たにどのような課題が生まれているのでしょうか。 (2 時間)	○P. 64資料1をもとに、ごみ処理の方法の移り変わりについて調べる。 ・昔は、ごみを分別せずに集めていた。 ・今は資源化物がリサイクルされるようになった。 ・70年ほど前の処理のしかたに比べ、今は衛生的になった。 ○ごみの処理が抱える新しい問題について「槇野さんの話」をもとに調べ、話し合う。 ・ごみの量が増えると、処分にかかる費用も増える。 ・コンピューターやスマホなど、処理の難しいごみが増えている。 ・外国の人にも、分別のしかたをわかりやすく知らせる工夫が必要になっている。 ・ごみの処理に関わる問題について、市は計	◆ごみ処理の移り変わりの資料を見るときには、どのように変わってきたのかに着目させる。 ◆ごみの処理に関わる新しい問題を解決していくためには、市の計画的な対策や事業が必要であることを考えさせる。	〔知技①〕 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、ごみの処理について、現在にいたるまでに衛生的に処理するしくみがつくられ、計画的に改善されてきたことや、ごみ処理にかかる新たな課題について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
		画的に取り組んでいる。 ごみの処理は衛生的に行われるようになり、市では、さらにごみを減らすことやごみ出しのルールを守ることなどの課題に取り組んでいる。 ⑨⑩		
まとめる	⑪ごみのしよりに ついてまとめる P. 66～67 ごみのしよりに ついて、わかつた ことや考えた ことを図にま とめましょう。 (1 時間)	○P. 66「まなびのポイント」の手順にしたが って、流れ図を作成し、わかつたことや考 えたことを話し合う。 ・家庭から出るごみは、清掃工場に運ばれ、 燃やされる。 ・そのことで私たちが衛生的に生活できる。 ・ごみを減らすことが必要だ。 ・処理しにくいごみが増えてきたことも問 題になっている。 ○学習をふり返り、自分の考えをノート等に まとめる。 ・ごみの処理にはいろいろな工夫がある。 ・ものを大切にすることがごみの減量につ ながる。 ・市の計画的な取り組みやほかの市との協 力もあつた。 ごみを処理するための様々な取り組み は、衛生的な処理や資源の有効利用がで きるように進められ、地域の人々の生活 環境の維持と向上に役立っている。 ⑪	◆導入で単元の「学 習問題」を確認す る。 ◆流れ図を作成す る際には、P. 67 の QR コンテンツ「ま とめるワークシ ート」を活用する とよい。	【知技②】 作成した図や発言内 容から、「ごみ処理 の取り組みは、衛生 的な処理や資源の有 効利用ができるよう に進められているこ と、それらは地域 の人々の生活環境の維 持と向上に役立っ ていることを理解し ているか」を評価す る。
いかす	⑫自分たちにでき ることを考える P. 68～69 ごみをへらす ために、自分た ちにできることを 考えてみましょ う。 (1 時間)	○ごみを減らすために、家庭・学校・商店・地 域がそれぞれどのような取り組みを行っ ているかを調べてきたことを発表し合う。 ・家庭では、ごみの分別をしている。 ・学校では、ごみの減量に努めている。 ・商店では、エコバッグの利用を勧めている。 ○ごみを減らすために自分たちにできること を考え、発表し合う。 ・買い物をするときには、エコバッグを使 いたい。 ・文房具などリサイクル品を買うようにし、 また買った物は大切に使う。 ・近くのスーパーマーケットで資源化物の回 収を行っているので、積極的に回収に協力 する。 家庭・学校・商店・地域の人々は、ご みを減らすためにさまざまな工夫に取 組んでおり、自分たちも、できることを考 え、取り組むことが大切である。 ⑫	◆事前に分担し、家 庭・学校・商店・地 域の取り組みを調 べさせておく。 ◆家庭・学校・商店・ 地域のごみの処理 の対策や事業は、 関連し合っ て進め られていることに 気づかせる。 ◆これまでの学習を ふまえ、自分た ちにできることを考 えさせるようにす る。 ◆自分たちにでき ることが本当にご みの減量に役立つ のかどうかを考え させるために、だ れに協力するのか、 どのように協力す るのかを意識させ るようにする。	【態度②】 ノートの記述や発言 内容から、「ごみを 減らすためにさま ざまな人が協力し ていることを踏ま え、自分もごみ減 量のためにできる ことを考えよう としているか」を 評価する。 【思判表②】 ノートの記述や発言 内容から、「学習し たことをもとに、 ごみを減らすた めに、自分たちが 協力できることを 具体的に考えたり 選択・判断し たりして表現し ているか」を評価 する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちが住んでいる県では、これまでにどのような自然災害が起きてきたのでしょうか。 (1時間)	○県内各地の自然災害の写真や年表を見て、気づいたことや考えたことを話し合う。 ・さまざまな種類の自然災害がくり返し起きている。 ・地震や風水害が多く起きている。 ・令和元年には、二つの台風と大雨が発生した。 ・風水害から人々を守るために、どのような取り組みがされているのかな。 単元のめあて 自然災害から人々を守る活動について、調べてみましょう。	◆日本全体における、千葉県の位置を改めて確認する。 ◆地震や風水害の多さに着目させる。	[態度] ノートの記述内容や発言内容から、「県内で過去に起こった様々な自然災害を概観し、自然災害から人々を守る活動について関心を高めているか」を評価する。

目標

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。	①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。	①自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習をふり返ったり見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを図表や文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	②地域の関係機関や人々の働きを関連付け、災害から人々を守る活動について考えたり、地域で起こり得る災害を想定し、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①風水害から人々を守る P. 74～75 風水害からくらしを守る人々の働きについて考え、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○県内で起きた風水害の写真から風水害が自分たちのくらしに与える影響や気づいたことについて話し合う。 ・台風で電柱が倒れたりしている。 ・大雨で土砂崩れが起きている。 ・オリエンテーションでは、駅前が浸水している写真もあった。 ・風水害にどのように対処したのかな。 ○救助活動や災害対策品部の写真、市役所の太久保さんの話から、気づいたことについて話し合い、学習問題をつくる。 ・消防や警察、自衛隊が協力して救助活動をしています。 ・風水害が起きた時に、市役所や国が協力して対処したんだね。 ・大雨が増えているということだけど、今後の風水害への備えは大丈夫かな。 ・これまでの風水害にどのように対処してきたかももう少し知りたい。	◆オリエンテーションでも風水害については扱っているが、改めて資料から、その被害の大きさに気づかせたい。 ◆自衛隊については国の機関であることを補足する。学習問題について予想をする際の根拠につながるので、写真や資料は丁寧に読み取りたい。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「風水害からくらしを守る人々の働きに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 風水害からくらしを守るために、だれが、どのような取り組みをしているのでしょうか。 ○風水害への対処や備えを誰がどのようにしているのか予想し、学習計画を立てる。 ・風水害にどのように対処してきたか調べる。 ・風水害への備えについて調べる。(県、市、地域の人々、自分たち)	◆いかす段階は学習を進めていく中で児童が見出す時間であるため、学習計画に位置付けておこななくてもよい。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもってしているか」を評価する。
調べる	②くり返し起きてきた風水害 P. 76～77 風水害からくらしを守るために、人々はどのようなことをしてきたのでしょうか。 (1 時間)	○P. 76の写真や年表からこれまでに起きた風水害についてわかったことを発表し合う。 ・県内では昔から風水害で大きな被害が起きてきたんだね。 ・たくさんの人たちが堤防の工事をしているよ。だれがどのようなことをしてきたのかな。 ○P. 77の写真や資料からだれがどのように風水害に対処してきたかを整理する。 ・国や県が堤防やポンプ場を協力して整備してきた。 ・市は防災公園をつくったり、地下に雨水をためる施設をつくったりして風水害に対処してきた。 ・人々は水塚をつくって、風水害の時の避難場所にすることで対処してきた。	◆写真や年表から、県内ではくり返し風水害が発生してきたことをつかませる。 ◆どのような立場の人が、どのように風水害に対処してきたのかに着目して調べられるようにする。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、過去に県内で起きてきた風水害に対して、国や県、市、人々がそれぞれの立場でどのように対処してきたのか理解しているか」を評価する。
		風水害に対処するため、国や県が中心となり協力して堤防やポンプ場の整備を進め、千葉市でも一時的に雨水をためる施設をつくるなどしてきた。昔の人々は水塚をつくって避難するなどの対処をしてきた。 ②		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③県の取り組み P. 78～79 千葉県では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○県が風水害に備えて、どのような取り組みをしているか予想し発表し合う。 ・前時で学習したように対処に役立つ堤防などを造っていると思う。 ○千葉県の取り組みについて調べ、わかったことについて話し合う。 ・県は計画的に川幅を広げたり、堤防を造ったりしていた。 ・市町村のための備蓄をしていた。 ・防災情報を伝えるウェブサイトをつくっていた。 ○県はなぜ防災情報を伝えるウェブサイトをつくっているのか話し合う。 ・堤防を造っても防げない風水害には人々が対処するしかないからだと思う。 ・人々が防災意識を高めれば、被害にあうのを防ぐことができるということだと思う。 千葉県では、風水害に備えて、計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めている。また、土砂災害避難訓練を行ったり、防災情報を伝えるウェブサイトをつくったりして、県民の防災意識の向上に取り組んでいる。 ③	◆前時での学習を想起させながら予想させることで、学習の連続性が出てくる。 ◆県の取り組みは川幅の拡幅や堤防の整備など、ハード面が中心であることに気づかせたい。 ◆県が県民の防災意識を高める意味について考えさせることで、公助の働きにも限界があることに気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「県が風水害に備えて計画的に川幅を広げたり、堤防を整備したりするなどの対策を進めていることや、県民の防災意識を高めるための取り組みをしていることについて理解しているか」を評価する。
	④市の取り組み P. 80～81 千葉市では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○県と市の取り組みに違いがあるか考え、話し合う。 ・県では、市や町、村のために備蓄をしていたから、市は市民のための食料などを備蓄していると思う。 ○千葉市の取り組みについて調べ、わかったことについて話し合う ・地域防災計画では、災害への備えと対処について定めていた。 ・企業とも災害時に協力する内容を決めていた。 ○災害時に、なぜ市は関係機関と連携することになっているのか話し合う。 ・市役所にできることと、国や県にできることが違うから、連携していると思う。 千葉市では、風水害に備えて地域防災計画をつくり防災備蓄倉庫を設置するなど市の取り組みを進めるとともに、関係機関と協力できるようにしている。また、防災情報の発信を強化したり、ハザードマップの普及に取り組んだりすることで、市民の防災意識をさらに高められるようにしている。 ④ ○ハザードマップを読み取り、避難所の運営などを市だけでできるのか話し合い、次時の学習に見通しをもつ。 ・市役所だけでは対応できないと思う。	◆県の取り組みを想起しながら市の取り組みについて考えられるようにする。 ◆「なぜ千葉市は、災害時に関係機関と連携することになっているのだろう。」と発問することで、千葉市と関係機関の相互関係とその意味について考えるきっかけをつくることができる。この際に連携という用語を協力と置き換えてもよい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「市が風水害に備えて計画的に取り組むを進めていることや関係機関と協力していること、市民の防災意識をさらに高めるための取り組みをしていることについて理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤地いきの人々の取り組み P. 82～83 地いきの人々は、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○地域の人々の取り組みについて予想したことを話し合う。 ・市が避難所を開くときに協力していると思う。 ・訓練をしていたりするんじゃないかな。 ○資料から避難所運営委員会の取り組みについて調べ、発表し合う。 ・市や地域の人にも参加してもらい、協力して避難所運営訓練をしている。 ・地域の人への情報発信をしている。 ・食料や生活用品の備蓄をしている。 ○三村さんが地域を自分たちで守る活動を大切にしている理由について話し合う。 ・風水害の時は、公助の働きだけでは足りないからじゃないかな。 ・自分たちのまちを大切に思っているからだと思う。 ・風水害の時に地域で支え合えるようにするためだと思う。 避難所運営委員会の人々は、風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練をしたり、地域の人への情報発信をしたりしている。また、食料や生活用品を備蓄して、市や県からの支援が届くまで、地域で支え合えるようにしている ⑤	◆前時の学習を想起させて導入する。 ◆避難所運営訓練は市だけでなく、地域の人々も協力して行われていることに留意する。 ◆三村さんの思いについて考える活動を通して、共助の取り組みの大切さや、次時で学ぶ自助の取り組みの必要性についての実感を少しずつ引き出していきたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「地域の人々が風水害に備えて、市と協力して避難所運営訓練などの取り組みを進めていることや、食料や生活用品を備蓄していること、地域の人が災害に備えられるように情報発信をしていることなどについて理解しているか」を評価する。
	⑥自助の取り組み P. 84～85 家庭では、風水害にそなえて、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○風水害への備えについて、家の人にインタビューすることを考える。 ・家の外のそなえについて ・家の中のそなえについて ・避難場所の確認について ・非常持ち出し品の用意について ○インタビューした内容をクラスで整理して考えたことを話し合う。 ・避難場所の確認をしていた人は多かったけれど、家の外や家の中の備えが十分な人は少ないね。 ・非常持ち出し品の用意は半分の人しかできてないね。 ・県や市、地域の人々も自助に役立つ情報を発信してくれていたのに、私たちの自助の取り組みは十分とは言えないね ・学習問題についての考えをまとめた後で、自分たちにできることを考えよう。 家庭では風水害に備えてさまざまな取り組みをしているが、取り組みには差があり、自助の取り組みは十分とはいえない。 ⑥	◆インタビュー項目については、児童に考えさせたり、県や市が発行しているチェックリストを活用したりする方法が考えられる。 ◆自助の取り組みの現状を知ること、問題意識をもたせて、いかす段階での活動につなげるようにしたい。	[知技①] インタビューの記録内容や発言内容から、「目的に沿って聞き取り調査できているか」を評価する。 [態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「自助の取り組みの不十分さに気づき、学習計画を修正していかす段階の見通しをもっているか」を評価する。

まとめる	⑦⑧ノートにまとめる P. 86～87 風水害からわたしたちの暮らしを守るために、だれがどのような取り組みをしているのかノートにまとめましょう。 (2 時間)	○風水害からくらしを守る働きについてふり返り、ノートに図で整理してから学習問題について話し合う。 ・これまでもくり返し風水害が起きてきた千葉県では、国や県が協力してつくった堤防やポンプ場や市がつくった一時的に雨水をためる施設などで風水害に対処していました。 ・市、県、国、地域の人々は、互いに協力しながらそれぞれの立場でできることをしていたから、輪でつなげました。 ・県や国と市、市と地域の人々はそれぞれ協力して風水害に対処したり、備えていたりしたので、それぞれをつなぐ線の間に「協力」というキーワードを入れました。 ・公助や共助の取り組みの中には、自助のそなえを引き出すための「しえん」が必ず入っていたから、自助に矢印を向けました。 ・やっぱり自分たちにできることは何か考える必要があると思います。 地域の関係諸機関や人々は自然災害に対し、さまざまな協力をして対処してきた。また、今後想定される災害に対し、さまざまな備えをしている。 ⑦⑧	◆ノート記録を基に、公助、共助、自助の取り組みについて学級全体でふり返ってからノートに図で整理させるようにする。 ◆図で整理する際には、立場の違いによる役割の違いや共通点、協力関係について考えさせ、線でつないだり、キーワードを書き込ませたりするようにする。P. 87「まなび方コーナー」も参考にするとよい。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「市、県や国、地域の人々などの関係機関や人々が自然災害に対して様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることについて理解しているか」を評価する。
いかす	⑨マイ・タイムラインでそなえを点検 P. 88～89 風水害にそなえて、わたしたちにできることは何でしょうか。 (1 時間)	○マイ・タイムラインについて知り、マイ・タイムラインづくりをする。 ・マイ・タイムラインをつくると、風水害が起きた時に必要なそなえや行動がとれるかを確かめることができるんだね。 ・市役所からもらったハザードマップが役に立つね。 ・避難所運営委員会の三村さんが教えてくれた危険な場所や避難所についての情報も役立つね。 ○マイ・タイムラインづくりを通してわかったことをもとに、自分たちにできる取り組みを発表する。 ・家の人とも避難先を確認したことが無かったので、まずは今日つくったマイ・タイムラインを家族に見せることも自分にできることだと思う。 ・風水害が来そうなときに、家族や地域の人と協力して、近くに住んでいるお年寄りに避難を呼びかけることはできると思う。 ・家では貴重品や備蓄品がどこにあるかわからないので、帰ったら家族と確認してみたい。 マイ・タイムラインをつくって、自分の家が浸水想定区域にあることを初めて知った。備蓄が不十分だとわかったので、必要なものを家族と準備するなど、自然災害に備えて自分たちにできることを考えることが大切である。 ⑨	◆マイ・タイムラインは住民一人ひとりのタイムライン(防災行動計画)のことである。本時では、マイ・タイムラインづくりを通して、自身の取り組みを改めて見つめ直し、自分にできることを考えさせるようにしたい。その際にこれまでの学習で県や市、地域の関係機関から提供を受けたハザードマップや資料を効果的に活用したい。 ◆「自分にできること」は特別な内容である必要はない。作成したマイ・タイムラインやこれまでの学習内容もともに考えさせることが大切である。	【態度②】 マイ・タイムラインへの記述内容や発言内容から、「学習したことを基に、風水害を想定して日頃から備蓄品の備えをするなど、自分たちにできることを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 マイ・タイムラインの記述内容や発言内容から、「学習したことをもとに、風水害を想定して日頃から備蓄品の備えをするなど、自分たちにできることを考えたり、選択・判断したりして、その理由や根拠について説明しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちの身のまわりには、どのような古いものがあるのでしょうか。 (1時間)	○それぞれが気づいた、身のまわりの古いものについて話し合う。 ・自分の家の近くには古くからある神社やお寺がある。 ・〇〇という、長い歴史があるお祭りがある。 ・旅行したときに、その地域に昔から伝わるおどりを見たことがある。 ----- 単元のめあて 県内には、どのような古いものが残されているのでしょうか。また、きょう土のはってんにつくした人々は、どのようなことをしたのでしょうか。	◆まずは既有の知識を自由に話し合う。 ◆自分たちの住む県にも、古くから残るものが多いことに気づかせる。	【態度】 ノートの記述内容や発言内容から、「古くから残るものを想起し、学習の見通しをもっているか」を評価する。

目標

県内の伝統や文化について、歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることで、県内の文化財や年中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現することを通して、県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受けついできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度や、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどについて見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、県内の文化財や年中行事の様子を理解している。	①歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取り組みなどに着目して、問いを見いだし、県内の文化財や年中行事の様子について考え表現している。	①県内の文化財や伝統行事について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、県内の文化財や年中行事には地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを理解している	②文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、人々の願いや努力について考えたり、学習したことをもとに地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして、表現している。	②地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしている。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①②愛媛県に古くから残るもの P. 96～97 県内に古くから残るものについて調べ、学習問題をつくりましょう。 (2 時間)	○県内に残る古いものの資料からわかったことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題をつくる。 ・県内の色々なところに、古い建物や年中行事が残っている。 ・東予では祭りが盛んで、中予ではみこしや獅子舞が有名で、東予には芸能が多いね。 ・古い建物や年中行事がどのようにして受け継がれてきたのかな。	◆県内の文化財や年中行事が県内全域に広がっていることを空間的に捉えさせるようにする。 ◆建物や年中行事がどれくらい古くから残っているのかについて児童が疑問に思った際には、道後温泉本館がおよそ130年前の建物である事実などを伝えと良い。	【思判表①】 ノートの記事内容や発言内容から、「県内にある古くから残るものについての現在にいたるまでの経過に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		学習問題 県内に古くから残るものは、どのようにして受けつがれてきたのでしょうか。 ○自分が調べる建物や年中行事を一つ選択して、予想と学習計画を立てる。	◆児童の実態に応じて、個人単位やグループ単位など、調べ学習の形態を工夫すると良い。	【態度①】 ノートの記事内容や発言内容から、「県内で受け継がれてきた伝統や文化について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④⑤ (1)道後温泉本館 P. 98～99 道後温泉本館は、どのようにして残されてきたのでしょうか。 (3 時間)	○道後温泉本館の写真を見て、道後温泉本館の人にメールで質問する内容を話し合う。 ・明治時代から今まで、建物の様子は変わっていないね。どうしてなのかな。 ・立派な建物にしたのには理由があると思うので、そこを聞いてみたい。 ・人々の協力や支えがあったのか聞いてみたい。 ○メールで質問したことや年表資料をもとに、わかったことを話し合う。 ・130年ほど前の町長さんが町のシンボルにしようと温泉を改築したのがきっかけだとわかった。 ・昔からくり返し増築や改造をしてきていて、現在も耐震工事をしているので、大切に守ろうとしていることがわかる。 ・市民の人々や国内外から来る観光客、それに国も重要文化財に指定したから関わりがあるね。 ○クラスで発表するための準備を行う。	◆メールなどで取材する前に、写真など、手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるとい目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは増改築や修復をくり返しなが道後温泉本館が残されてきたことを読み取らせたい。	【知技①】 ノートの記事内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、道後温泉本館やそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。
		道後温泉本館は、約130年前の町長さんが100年先を考えて改築したことがきっかけとなって、町のシンボルになった。その後、地域の人や観光客にも大切にされる建物になり、国指定重要文化財にも指定され、大切に残されてきた。 ③④⑤		

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	③④⑤ (2) 宇和島市の八ツ鹿おどり P. 100～101 八ツ鹿踊りは、どのようにして受けつがれてきたのでしょうか。 (3 時間)	○「八ツ鹿おどり」についてのパンフレットを読んで、八ツ鹿保存会の人にインタビューする内容を話し合う。 ・お祭りの練り物として続いてきたんだね。 ・踊りを踊っているのは子ども達だったんだね。 ・どのようにしておどりを受け継いでいるのかな。 ○インタビューしてわかったことや年表資料をもとに、わかったことを話し合う。 ・380年ほど前から、少しずつかたちを変えたり、戻したりしながら受け継がれてきたことがわかった。 ・市の文化財に指定されたり、国から補助金をもらったりして、支えられていたね。 ・踊りには「よいことがたくさん起こりますように。」という願いが込められていたことがわかった。 ・八ツ鹿保存会の人たちによって受け継がれているんだね。 ○クラスで発表するための準備を行う。 八ツ鹿踊りは、約380年前から、「よいことがたくさんおこりますように。」という願いを込めて地域の人々に踊り継がれてきた。国や市の支えもあり、現在でも、八ツ鹿ほぞん会の人々によって子ども達に受け継がれている。 ③④⑤	◆インタビューなどで取材する前に、パンフレットなど手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるという目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは、長い歴史の中で、変化しながらも踊りが受け継がれてきたことを捉えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、宇和島市の八ツ鹿おどりやそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。
	③④⑤ (3) 新居浜太鼓祭り P. 102～103 新居浜太鼓祭りは、どのようにして続けられてきたのでしょうか。 (3 時間)	○「太鼓祭り」の写真を見て、どのように残されてきたのか、川西地区の加藤さんにインタビューすることや太鼓台ミュージアムで見学する内容を話し合う。 ・たくさんの太鼓台が集まっていて、とても迫力があるね。 ・子どもがかつぐ太鼓台もあるよ。 ・海の上にも太鼓台を浮かべているね。これだけ大きな祭りをどのようにして続けてきたのかな。 ○インタビューしてわかったことや太鼓台ミュージアムを見学して、わかったことを話し合う。 ・太鼓祭りは、地域の団結を願った平和の祭典だとわかった。 ・太鼓台が地域の発展に合わせて大きくなってきたことがわかった。 ・子ども太鼓台は、しょうらい祭りをになう子ども達のために昭和時代から始められたことがわかった。 ○クラスで発表するための準備を行う。 新居浜太鼓祭りは、約千年前にはじまったと伝わり、地域の産業の発展に合わせて大きくなった。昭和時代から子ども太鼓台の運行も始まり、地域の団結の願いを込めた平和の祭典として受け継がれている。 ③④⑤	◆インタビューなどで取材する前に、パンフレットなど手元の資料でわかることを整理しておき、そこから考えた予想や疑問を確かめるという目的意識を持たせるようにする。 ◆年表からは、祭りを受け継ぐだけではなく、将来も祭りを続けていくために、子ども太鼓台の運行が昭和時代に始まったことにも気づかせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から「必要な情報を集め、読み取り、新居浜市の太鼓祭りやそれを保存・継承する人々の様子を理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
まとめる	⑥⑦受けつがれてきた古いもの P. 104～105 県内に古くから残るものについて調べたことを伝え合い、表に整理しましょう。 (2 時間)	○これまでに調べたことを発表して、表にまとめる。 ・「はじまり」、「はじまりやこれまでのできごと」「だれがどのように受け継いできたか」「人々の願い」に分けて整理すると良いね。 ○作成した表を見ながら、それぞれに共通することや違う点など、気づいたことを話し合う。 ・受け継がれてきた古いものは、どれも長い間人々に大切にされてきたんだね。 ・地域の人々の幸せやほこり、団結といった思いや願いがこめられているんだね。 ・たくさんの人に文化財やきょう土芸能、祭りを知ってもらおうと努力したり、子ども達に受け継ぐための工夫をしたりしていたね。 県内の文化財や年中行事は、長い間地域の人々が協力して受け継いできたものであり、それらには地域の発展など人々のさまざまな願いが込められている。 ⑥⑦	◆「まなび方コーナー」を参照して、表に整理する方法を確認する。 ◆整理した表をもとに、「はじまり」「はじまりやこれまでのできごと」「だれがどのように受け継いできたか」「人々の願い」について、共通点や違いを考えながら、学習問題について考えられるようにする。 ◆一人一台端末を使って表を作成する際は、QR コンテンツ「まとめるワークシート」が活用できる。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「調べたことを表や文などにまとめ、県内の文化財や年中行事が地域の人々に受け継がれてきたことや、それらには地域の発展などの人々の様々な願いが込められていることについて理解しているか」を評価する。
いかす	⑧⑨身近な地いきを見直そう P. 106～107 地いきに古くから残るものを受けつぐために、自分たちにできることを考えてみましょう。 (2 時間)	○身近な地域に古くから残るものについて考える。 ・学校には伊予万歳クラブがあるけれど、これも古くから残るものだと思う。 ○伊予万歳保存会の平野さんにインタビューしてわかったことを整理する。 ・万歳は正月に家が栄えるように、うたったり、おどったりする郷土芸能。 ・伊予万歳には350年以上の歴史がある。 ・若い人に伝えるために、学校のクラブで教えている。 ○伊予万歳のように、身近な古くから残るものを受け継ぐ取り組みに、より多くの子ども達が参加するために、自分たちにできることを話し合う。 ・秋祭りに参加して、祭りのにない手になる。 ・実際に体験して、楽しいところややりがいやまわりの人に伝える。 ・ポスターをつくって、学校や地域で宣伝する。 地域に古くから残る文化財や年中行事には、人々の願いが込められており、地域社会の一員としての自覚を持って保存・継承のために何ができるか考えていくことが大切である。 ⑧⑨	◆地域の伝統や文化を保存したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えた選択・判断したりして、地域に対する誇りや持続可能な社会を担おうとする態度を養う。 ◆教科書では伊予万歳を取り上げているが、身近な事例を簡単に調べて自分たちにできることを考えさせると良い。	【態度②】 作品の内容や発言内容から、「地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えようとしているか」を評価する。 【思判表②】 作品の内容や発言内容から、「文化財や年中行事を保存したり受け継いだりしている人々の工夫や努力と地域の人々の願いを関連付けて、学習したことを基に地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えた選択・判断したりして、表現しているか」を評価する。

目標

県内の先人の働きについて、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめ、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することを通して、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①当時の世の中の課題や人々の願いなどについて、見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を理解している。	①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、問いを見だし、地域の発展に尽くした先人の具体的事例について考え表現している。	①県内の先人の働きについて、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを年表や文などにまとめ、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解している。	②先人の働きと地域の発展や人々の生活の向上を関連付けて考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①石でできた橋 P. 108～109 通潤橋を観察して、どのようなことがわかるのかを話し合しましょう。 (1 時間)	○通潤橋の写真を見て、気づいたことを発表する。 - 真ん中から水がすごい勢いで大量に噴き出している。 - 橋の下が丸い形になっている。 - たくさんの人が橋を見に来ている。 ○なぜ、このような橋をつくったのか考える。 - 空から見ると、谷が深いよ。どこかどこかを結ぶ道をつくりたかったのかな。 - 橋から水が噴き出していることと何か関係があるのかな。 熊本県の白糸台地には、布田保之助を中心にした人々が石を組んでつくった通潤橋という水を通すための橋がある。 ①	◆通潤橋の写真を提示する。 ◆地図で、通潤橋の位置を確かめる。 ◆布田保之助が約 170 年前の人であることを確認する。 ◆通潤橋のまわりの地形を確かめる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、通潤橋の地理的な観点や特徴について理解しているか」を評価する。
	②昔の人々の願い P. 110～111 白糸台地に住んでいた人々の願いと地形の特ちょうをもとに、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○白糸台地の地形に関する写真を読み取る。 - 深い谷に囲まれている。 - 水を確保するために川まで下りるのが大変だ。 ○白糸台地でくらす人々の願いについて調べる。 - 農業用水が十分でない。 - 何とかして水を引きたい。 ○学習問題をつくる。 - どうやって橋をつくったのだろう。 学習問題 布田保之助たちは、どのような苦心やくふうをして通潤橋をつくったのでしょうか。	◆白糸台地の人々の願いについて、水の確保の難しさと生活への影響を関連づけて調べるようにする。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「地形ゆえの当時の人々の思いや願いに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		○学習問題について予想し、学習計画を立案する。	◆学習問題の解決のために調べることを整理し、学習計画を立てる。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「通潤用水をつくった布田保之助ら先人の働きについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	③④用水路としての通潤橋 P. 112～113 保之助は、どこからどのようにして、白糸台地に水を引こうとしたのでしょうか。 (2 時間)	○人物年表などから布田保之助について読み取る。 - 多くの庄屋のまとめ役。 51 才で通潤橋をつくり始めた。 ○イラスト、地図などを活用して用水がどのように送られているか調べる。 - 約 6 km も離れた笹原川から水を引いている。 - 白糸台地は台地なので、低い所から水を送る工夫が必要。 布田保之助は、笹原川から水を取り入れて用水をつくり、水の通る橋をつくって、白糸台地に水を送ろうとした。 ③④	◆通潤橋が通潤用水全体のどの位置にあるか、資料「通潤橋と白糸台地」「取り入れ口から通潤橋まで」などから調べるようにする。 ◆P. 113「まなび方コーナー」を活用して、現地で用水を調べる際のポイントを確認する。 ◆ことば「用水」を確認する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「白糸台地へ水を引くことの困難さについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑤⑥水を送るくふう P. 114～115 深い谷に囲まれた台地に、どのようにして水を送ったのでしょうか。 (2 時間)	○白糸台地の地図などから地形の様子を読み取り、水を送るのに、どのような問題点があったのか、整理する。 ・ まわりの谷が深くなっているの、まわりの川から水を取りにくい。 ・ 高い所へ水を送る工夫が必要。 ○布田保之助が橋より高い土地にどのようにして水を送ったのか、調べる。 ・ 水が落ちる力を利用した。 ・ 管を木ではなく、石にした。 布田保之助は、土地の高い白糸台地に水を送るために、水が落ちる力を利用するとともに、石の管をつなげて水を送るしくみを考えついた。 ⑤⑥	◆問題点をどのように解決したかを予想し、調べるようにする。 ◆ことば「等高線」を確認する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、深い谷に囲まれた白糸台地に水を送るしくみについて理解しているか」を評価する。
	⑦⑧石の管をつなげて水を送るくふう P. 116～117 どのようにして、石の管をつなげて水を通したのでしょうか。 (2 時間)	○水が石のすきまからもれないようにどのようなことをしたのか、調べる。 ・ 特別なしっくいをつないだ。 ・ 何度も実験を繰り返して、水圧にたえられる通水管をつくることのできた。 ○橋が石の重みや水のいきおいでくずれないように行った工夫を調べる。 ・ 丈夫なアーチ型の石橋。 ・ 橋のあしもとは、特に強くする必要がある。 布田保之助は、水がもれないように石の管を特別なしっくいをつなぐしくみを取り入れるとともに、丈夫なアーチ型の石橋にしようと考えた。 ⑦⑧	◆問題点をどのように解決したかを予想し、調べるようにする。 ◆用語解説「しっくい」を確認する。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、石の隙間から水が漏れない工夫について理解しているか」を評価する。
	⑨じょうぶな橋にするために P. 118～119 石工たちは、じょうぶな橋にするために、どのようなことをしたのでしょうか。 (1 時間)	○人物年表などから橋本勘五郎について調べる。 ・ たくさんの橋をつくった。 ・ 明治政府に招かれた。 ○石工たちが丈夫な橋にするために行った工夫を調べる。 ・ 熊本城の石垣を参考にした。 ・ 石橋づくりの手順 布田保之助のたのみを受けた橋本勘五郎ら石工たちは、熊本城の石垣の技術を取り入れて丈夫な橋をつくり、1年8か月で完成させた。 ⑨	◆橋本勘五郎の功績について、じょうぶな橋づくりの工夫と関連させて調べるようにする。 ◆ことば「石工」を確認する。 ◆アーチ型の石橋建設の手順などについては、VTRや模型などを活用して実感的に理解できるようにするとよい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、丈夫な橋にするための石工たちの工夫について理解しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑩人々のくらしの変化 P. 120～121 通潤橋ができて、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか。 (1 時間)	○通潤橋ができて、人々のくらしがどのように変わったのか、調べる。 ・ 白糸台地の写真や資料から、土地利用の変化（水田の広がり）を読み取る。 ・ 用水路は今も使われている。 ・ この地域の人々にとってなくてはならないものである。 ○どのようにして通潤橋を残していこうとしているか、調べる。 ・ 清掃活動のボランティア ・ 通潤橋は地域の宝。 通潤橋と用水路の建設によって、白糸台地には水田が広がり、人々の生活は向上した。山都町や熊本県の人々は、清掃活動のボランティアをしたり、昔の方法で修理したりすることで、通潤橋を未来に残していこうとしている。 ⑩ ○ 2016 年の熊本地震の際、通潤橋はどうなったのか、調べる。 ・ ひび割れなどが起こり、水が漏れだした。 ・ 地元の農業をする若者が中心になって全国から支援を集めようとする動きがあった。	◆用水ができる前と後で、どのような違いがあるか、用水路の完成と水田の広がりに関連づけ、比較して調べるようにする。 ◆用水路が、水の確保や収穫量の増加だけでなく、人々のくらしの向上につながっていることを考えられるようにする。 ◆通潤橋に対する地域の人々の意識について、「通潤地区土地改良区の甲斐さんの話」に関連づけて調べるようにする。 ◆ことば「ボランティア」を確認する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、通潤橋が完成したことによる人々のくらしの変化について理解しているか」を評価する。 【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「通潤橋を後世に残していこうとする山都町や熊本県の人々の思いや願いについて考え表現しているか」を評価する。
まとめる	⑪⑫通潤橋物語を紙芝居にまとめよう P. 122～123 調べてわかったことや考えたことを、紙芝居にまとめて発表しましょう。 (2 時間)	○調べたことを紙芝居にまとめて、通潤橋物語をつくる。 ○布田保之助や石工たちの功績について改めて考えたことについて話し合い、場面ごとに伝えたい内容を整理し、それぞれの場面に合ったせりふを考えて、みんなで協力して紙芝居をつくる。 ・ 布田保之助をはじめ、多くの石工や村人の働きがあって、人々の生活がよりよいものになった。 さまざまな苦心や工夫を重ねて用水を開発した先人の働きにより、人々の生活の向上への願いが実現し、地域が発展してきた。 ⑪⑫	◆P. 122～123「まなび方コーナー」を活用し、学習したことをもとに紙芝居にまとめ、発表する手順を確認する。 ◆P. 122「ことば」を参考にして、学習をふり返ることができるようにする。	【知技②】 紙芝居の絵やせりふの内容から、「通潤橋の果たした役割やそれをつくった布田保之助や石工たちの功績を理解しているか」を評価する。 【思判表②】 紙芝居の絵やせりふの内容から、「布田保之助と石工たちの功績と通潤橋の果たした役割と後の世までの影響に関連付け、生活の向上を考え表現しているか」を評価する。

指導計画

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	わたしたちが住む県には、どのような特色をもった地いきがあるのでしょうか。 (1時間)	○県内各地の写真を見て、地域の特色や人々の暮らしについて話し合う。 ・みやぎ蔵王こけし館で実演を見たことがある。 ・仙台市は、国際ハーフマラソンが有名。 ・松島は、県を代表する観光地だ。 ・登米市登米町には「みやぎの明治村」がある。 ----- 単元のめあて 県内の特色ある地いきや人々の暮らしについて調べてみましょう。	◆地場産業がさかんな地域や国際交流に取り組む地域、自然環境や伝統的な文化を保護・活用している地域の存在を意識できるようにする。	【態度】 発言内容やノートの記述内容から、「県内には様々な特色ある地域があることに気づき、そうした地域での人々の暮らしの様子に関心を高めているか」を評価する。

5ー①こけしをつくるまち・蔵王町

7 時間／P. 132～139

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業 発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見出し、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①こけしづくりの伝統を守る蔵王町 P. 132～133 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・蔵王町は山に囲まれた地形である。 ・蔵王町の遠刈田温泉には、こけし館やこけしのらんかんのある橋がある。 ・蔵王町のこけしは国の伝統工芸品に指定されている。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 蔵王町では、こけしづくりをどのように受けついできたのでしょうか。	◆蔵王町でこけしづくりが続いている理由を資料をもとに予想させる。 ◆ことば「伝統的な産業」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業であるこけしづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・空撮写真を見ると、蔵王町には森林が多そうだ。こけしはこの木で作られているのかな。 ・こけしは、いつごろから作られているのか知りたい。		[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業であるこけしづくりやその歴史的背景について、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③古くからつくられてきたこけし P. 134～135 なぜ蔵王町では、こけしづくりがさかんになったのでしょうか。 (2 時間)	○蔵王町でこけしづくりがさかんになった理由を、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・蔵王町以外でも山に囲まれた地域ではこけしづくりが行われている。 ・こけしづくりは原料である木が取れやすい場所で木地師が始めた。 ・子供のおもちゃとしてつくり始められ、今ではお土産物として蔵王町の特産品となっている。 蔵王町では、原料の木が取れやすい環境を生かして古くからこけしづくりが行われており、現在は特産品となっている。 ②③	◆地図などの資料からこけしづくりがどのような環境でさかんなのか考えさせる。 ◆こけしづくりが古くから行われてきた歴史を調べさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、蔵王町の地理的な特徴とこけしづくりの歴史について理解しているか」を評価する。
	④⑤遠刈田こけしづくり P. 136～137 200 年以上の伝統をもつこけしは、どのように作られてきたのでしょうか。 (2 時間)	○蔵王町のこけしは、どのようにつくられ、受け継がれてきたのか資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・数々の工程を経て、一つのこけしはつくられている。 ・一人前の工人になるには長い年月がかかる。 ・他の地域からも後継を募り、こけしづくりを受け継いでいる。 蔵王町では、伝統的なこけしづくりを守るとともに、他の地域から工人を募り、新しい形のこけしづくりにも挑戦している。 ④⑤	◆伝統的なこけしづくりがどのように行われているのか資料をもとに調べるようにする。 ◆伝統を受け継ぎ、次の世代に受けついでいくために大切なことを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「伝統的なこけしづくりを受け継ぐことに加えて、未来につなぐ取り組みについて考え、表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥未来につなげる こけしづくり P. 138 蔵王町では、伝統のこけしづくりを未来へつなげるために、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○伝統のこけしづくりを未来につなげていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・こけし工人の移住を進めたり、若手工人の作品の販売を助けたりしている。 ・インターネット販売などで、販売を外国などに広げている。 蔵王町では、伝統のこけしづくりを未来につなげるために、若手工人の移住を進めたり、新しい販売方法を工夫したりしている。 ⑥	◆伝統を未来につなげる取り組みをしていることを調べさせる。 ◆新しい取り組みを工夫する意味を話し合わせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、新しい販売方法や若い工人を受け入れる取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 139 こけしをつくる蔵王町について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○こけしをつくる蔵王町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・こけしづくりには200年以上の歴史がある。 ・伝統的な技術を生かして手づくりしている。 ・後継者を増やすために、他の地域から工人になる人を募っている。 ・こけしに関するイベントや、インターネット販売など、こけしの魅力を広める取り組みをしている。 蔵王町では、伝統的な産業であるこけしづくりを生かしたまちづくりを進めるとともに、その伝統や技術を守り、未来につながる取り組みを工夫している。 ⑦	◆学習問題を確認して、P. 139「ことば」を使って、4コマCMをつくるようにする。 ◆「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。 ◆ICT 端末を使用して4コマCM作成する際は、ひな形として、QR コンテンツ「まとめるワークシート」を活用してもよい。	【知技②】 ノートの記述内容や発言内容から、「蔵王町の伝統的な産業を生かしたまちづくりの様子や、こけしづくりを未来に残し伝えようとしている取り組みについて理解しているか」を評価する。 【思判表②】 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業と地域の発展を関連付け、特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①仙台に住む外国の人 P. 140～141 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・仙台ハーフマラソン」や「仙台国際音楽コンクールには外国の人たちがたくさん参加している。 ・中国をはじめいろいろな国の人が住んでいる。 ・仙台市のウェブサイトには、市の国際交流についてまとめたページがある。さまざまな交流が紹介されている。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 仙台市では、外国の人々とどのような交流をし、共にくらすためにどのようなまちづくりをしているのでしょうか。	◆資料2や資料3を読み取ることを通して、外国の人たちが、なぜ増えているのか、考えさせるようにする。 ◆外国の人とくらすには、どのような取り組みをしているのか予想させる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流の取り組みや人々の協力に着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・なぜ仙台市には外国の人が多く住んでいるのかな。 ・外国との交流には、他にどのようなものがあるのかな。	◆インターネットで調べる際は、P. 141「まなび方コーナー」を参照する。	【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流の取り組みについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③国際交流の取り組み P. 142～143 仙台市は、どのような国際交流をしているのでしょうか。 (2 時間)	○仙台市ではどのような国際交流をしているか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・仙台市は国際姉妹都市や国際交流都市など、現在9つの都市と交流している。 ・国旗には、その国の人に願いが込められ、互いに尊重しあうことが大切だ。 仙台市では、国際姉妹都市・友好都市との交流やスポーツイベントなどさまざまな交流活動を行っている。 ②③	◆仙台市がいつごろからどのような理由で外国との交流を始めたのか、地図や年表などを活用して調べるようにする。 ◆ことば「国際交流」を確認する。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、仙台市の国際交流の歴史や特徴について理解しているか」を評価する。
	④⑤共にくらしやすいまちづくり P. 144～145 SenTIA では、どのような取り組みが行われているのでしょうか。 (2 時間)	○SenTIAでは、どのような交流の取り組みが行われているか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・仙台市では、市とSenTIAが協力して、交流活動や共にくらすための取り組みをおこなっている。 ・SenTIAは、主に外国人向けにサポートする取り組みをしているだけでなく、互いの文化を紹介し合う機会を設けるなどして、世界の課題や多様性の理解に努めている。 SenTIA では、外国人支援だけでなく、留学生交流委員会によって互いの文化を伝え合うなど共生の取り組みを行っている。 ④⑤	◆市や SenTIA どのような協力をしているのか資料などを活用して調べるようにする。 ◆ことば「共にくらす」、用語解説「留学生」を確認する。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「外国人支援だけでなく留学生交流委員会による共生の取り組みについて考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥だれもが安心してくらせるまちを目指して P. 146 市民は、共にくらすために、どのような取り組みをしているのでしょうか。 (1 時間)	○市民は共にくらすためにどのような取り組みをしているのか、資料を活用して調べ、話し合う。 ・東日本大震災では、外国人住民も避難所にたくさん集まったが言語や宗教、習慣の差異によってなどで互いに困ることがあった。 ・東日本大震災での課題をもとに、外国人も一緒に防災訓練を行うなど、共生への取り組みを行っている。 共にくらすまちづくりに向けて、外国人住民との防災活動などを通して地域住民同士も交流活動を行っている。 ⑥	◆外国人住民も地域の一員であることに気づかせるようにする。 ◆交流するだけではなく、日本人住民と外国人住民が共生していくことが大切であることを考えさせたい。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、日本人住民と外国人住民が共にくらすための取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 147 国際交流に取り組む仙台市について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○国際交流に取り組む仙台市について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・仙台は、歴史的に外国と深いつながりがある。 ・世界のさまざまな都市と、姉妹・友好都市の提携をしている。 ・SenTIAでは、外国人向けにサポートする取り組みをしているだけでなく、お互いの文化を紹介し合う機会を設けて、それぞれの文化を理解できる取り組みをしていた。 ・地域の防災訓練に外国人住民も参加するなど、日本人と外国人住民が共に力を合わせて活動している。 仙台市では、市・団体・地域が協力して、多文化共生のまちづくりに取り組んでいる。 ⑦	◆学習問題を確認して、これまでの時間で学んだ「ことば」を使って、4 コマ CM をつくるようにする。 ◆P. 139「まなび方コーナー」を参考に4 コマ CM をつくるようにする。	[知技②] ノートの記述内容や発言内容から、「仙台市の国際交流や多文化共生といった人々の協力を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 4 コマ CM から、「蔵王町の伝統的な産業と仙台市の国際交流を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見だし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①日本三景・松島 P. 148～149 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・松島はたくさんの島があり、日本三景の一つに数えられる景勝地である。 ・宮城県の観光地として観光客数が最も多い。 ・古い建物やまちなみが残っているようだ。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 松島町では、美しい景観を生かしてどのようなまちづくりをしているのでしょうか。	◆松島はいつごろから観光地として賑わってきたのか、資料をもとに予想させる。 ◆ことば「景観」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「松島町の景観を生かしたまちづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・松島はたくさんの島があり、日本三景の一つに数えられる景勝地である。 ・宮城県の観光地として観光客数が最も多い。 ・古い建物やまちなみが残っているようだ。		【態度①】 ノートの記述内容や発言内容から、「松島町の自然環境を生かしたまちづくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③昔からのまちなみを守る P. 150～151 松島町では、れきしある美しい景観をどのようにして守っているのでしょうか。 (2 時間)	○松島町では、歴史ある景観をどのようにして守っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・松島は江戸時代から美しい景観で有名だった。 ・景観条例をつくり、街並みを整える活動をしている。 ・特別名勝松島や国宝瑞巖寺を中心にしたまちなみを残すため、市民と話し合っている。 松島町では、歴史ある美しい景観を守るために、景観条例をつくったり、住民が勉強会を開いたりするなどして、地域で協力している。 ②③	◆松島は江戸時代からの古くからの景勝地であったことを資料からとらえさせる。 ◆町だけでなく、住民も勉強会を開くなどして、景観の維持に努めていることを考えさせる。	【知技①】 ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、松島町の景観を生かしたまちづくりの歴史や人々の協力について理解しているか」を評価する。
	④⑤美しい自然と景観を生かした観光 P. 152～153 松島町では、美しい自然をどのように守り、まちづくりに生かしているのでしょうか。 (2 時間)	○松島町では、どのようにして松島湾の自然環境と景観を維持しているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・島々の松や松島湾のアマモを守るために、町や団体、住民が活動している。 ・遊覧船や養殖カキなど、観光客が楽しめるようにしている。 ・景観や自然環境を、名物として観光に生かしている。 ・東日本大震災の被害を克服しようとしている。 松島町では、町や団体、住民が協力して、松や湾の手入れなど美しい自然と景観を守る取り組みをするとともに、観光客を増やす活動をしている。 ④⑤	◆美しい自然を守り、観光に生かすための取り組みを資料などを活用して調べるようとする。 ◆まちと団体、住民が協力していることを考えさせる。	【思判表①】 ノートの記述内容や発言内容から、「自然環境の維持を人々が力を合わせて観光につなげる活動について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥景観を未来に P. 154 これから景観を生かしていくために、どのような活動が行われているのでしょうか。 (1 時間)	○景観を生かしたまちづくりを続けていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・小・中学生が外国語でガイドをしている。 ・松島高校には観光科があり、地域の人や旅行会社との実習やオンラインツアーを行なっている。 歴史ある美しい景観を未来につなげていくために、「松島こども英語ガイド」や松島高校に観光科をつくるなど、次の世代にむけた新しい取り組みを行っている。 ⑥	◆未来を担う次の世代へ引き継ぐ取り組みをしていることを調べさせる。 ◆景観を維持していくとどこに大切なことを話し合わせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、歴史ある景観や美しい自然環境を未来につなげるための取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 155 美しい景観を生かす松島町について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○美しい景観を生かす松島町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 ・松島は、日本三景の一つで、たくさんの観光客が訪れる。 ・松島町では、 松島町では、歴史ある美しい景観や自然環境を生かしたまちづくりを受け継ぎ、広めるとともに、未来に残していくための取り組みを続けている。 ⑦	◆学習問題を確認し、P. 155「ことば」を使って、4コマCMをつくるようにする。 ◆P. 139「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。	[知技②] 4コマCMや発言内容から、「松島町の歴史ある景観や自然環境を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 4コマCMから、「蔵王町の伝統的な産業や仙台市の国際交流、松島町の自然環境を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①県内の特色ある地いきのよさを伝えよう P. 164～165 県内の特色ある地いきのよさを、学校みんなに伝えてみましょう。 (1 時間)	○これまでにつくった4コマCMや、学習で使った写真などを整理する。 ・伝統的な産業がさかんな地域 ・国際交流に取り組む地域 ・自然環境を観光などに生かす地域 ・古いまちなみを観光などに生かす地域 ○特色ある地域と自分たちのくらすまちを比べて気づいたことを話し合う。 ○学習で使った写真などの資料を生かして三角ポストをつくり、自分たちの県内の特色ある地域のよさを発信する。 自分たちの県には、伝統的な産業や国際交流の取り組み、自然景観（古いまちなみ）などを生かしたまちづくりに取り組む特色ある地域がある。 ①	◆自分たちのまちと似ているところや違うところについて、これまでにつくった4コマCMや写真、地図等を活用して調べるようにする。	[思判表] 三角ポストの内容や発言内容から、「これまで学習した三つの地域を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりや自分が住んでいる地域の特色を発信するなど、自分たちにもできることを考え表現しているか」を評価する。 [態度] 三角ポストの内容や発言内から、「学習したことをもとに、県内の特色ある地域のまちづくりを発信するなど、自分たちにもできることを考えようとしているか」を評価する。

目標

県内の特色ある地域の様子について、特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地図帳や各種の資料で調べ、白地図などにまとめ、地域の様子を捉え、それらの特色を考え、表現することを通して、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①特色ある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などについて地図帳や各種の資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、特色ある地域の様子を理解している。	①特色ある地域の位置、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、問いを見いだし、県内の特色ある地域の様子について考え表現している。	①県内の特色ある地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や文などにまとめ、県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解している。	②特色ある地域の人々の活動や産業とそれらの地域の発展を関連付けたり、自分たちの住む地域と比較したりして県内の地域の特色を考え、適切に表現している。	

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
学習問題をつかむ	①「まちのいたるところに、古い建物が」 P. 156～157 写真や資料から、気づいたことを話し合い、学習問題をつくりましょう。 (1 時間)	○写真や統計資料などから、気づいたことを話し合う。 ・約500m四方の中に、古い建物がたくさんあり、「みやぎの明治村」と呼ばれている。 ・武家屋敷など、明治以前の建物もある。 ○学習問題をつくり、予想し、学習計画を立てる。 学習問題 登米町では、伝統的な文化がいまのまちの景観を、どのようにまちづくりに生かしているのでしょうか。	◆地図をもとに、約500m四方にたくさんの古い建物が維持されていることに気づかせる。 ◆ことば「景観」に注目させ、景観を守る取り組みについて考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、「登米町の古い文化財や景観を生かしたまちづくりの取り組みに着目して、問いを見いだしているか」を評価する。
		・まちの人たちが、古い建物を大切に守ってきたのだと思う。 ・大切に守ってきた理由は何だろう。		[態度①] ノートの記述内容や発言内容から、「登米市登米町の古いまちなみを生かしたまちづくりについて、予想や学習計画を立て、学習問題を解決する見通しをもっているか」を評価する。
調べる	②③文化がいとれ きしある景観を 守り伝える P. 158～159 登米町では、どのようにしてれ きしある景観を 守っているの でしょうか。 (2 時間)	○登米町では、歴史ある景観をどのようにして守っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・江戸時代は城下町として栄えていた。 ・明治時代には水沢県の中心だった。 ・登米の人々は歴史あるまちに誇りをもち、景観を保護している。 江戸時代から城下町として栄えてきた登米のまちの人々は、登米の歴史に誇りをもち、歴史ある景観を保護している。②③	◆江戸時代から地域の中心とし繁栄してきたことをとらえさせる。 ◆市だけでなく住民も景観の維持に努めている理由を考えさせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を集め、読み取り、登米町の歴史や歴史ある景観を生かしたまちづくりの特徴について理解しているか」を評価する。
	④⑤景観を生かしたまちづくり P. 160～161 「みやぎの明治村」の景観を生かしたまちづくりは、どのように行われているのでしょうか。 (2 時間)	○登米町では、「みやぎの明治村」の景観を生かしたまちづくりをどのように行っているのか、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 ・とよま振興公社の方が景観条例をもとに、住民にまちなみの維持を呼びかけている。 ・町の人も進んで歴史ある建物を守り、人々に広めている。 ・観光ガイドが、観光客に古いまちなみの魅力を伝えている。 登米町では、人々が力を合わせて「みやぎの明治村」の古いまちなみを守り、観光に生かしている。④⑤	◆歴史ある景観を守り、観光に生かすための取り組みを資料などを活用して調べるようにする。 ◆まちと団体、住民が協力していることを考えさせる。	[思判表①] ノートの記述内容や発言内容から、登米町の人々が、それぞれの立場で歴史ある景観を守り、観光に繋げている活動について考え表現しているか」を評価する。

	本時のめあて	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点	評価規準と評価方法
	⑥古くから伝わる景観や文化を未来へつなぐ P. 162 これから文化財や景観を生かしていくために、どのようなことが行われているのでしょうか。 (1 時間)	○古くから伝わる景観や文化財を生かしたまちづくりを続けていくために取り組んでいることを、資料を活用して調べ、まとめ、話し合う。 - 小学生が教育資料館の清掃活動をしている。 - 伝統ある登米能を、他の地域の人にも紹介する活動など、登米の文化をこれからも伝えようとしている。 登米町では、古くから伝わる景観や文化財、文化を未来へ繋いでいくために、小学生による教育資料館の清掃活動や登米能継承活動など、次の世代や他の地域の人々にむけた新しい取り組みを行っている。 ⑥	◆未来を担う次の世代へ引き継ぐ取り組みをしていることを調べさせる。 ◆景観を維持しているところに大切なことを話し合わせる。	[知技①] ノートの記述内容や発言内容から、「必要な情報を読み取り、登米町の歴史ある景観を未来へ繋ぐ取り組みについて理解しているか」を評価する。
まとめる	⑦4コマCMをつくる P. 163 古いまちなみを生かす登米町について調べたことをもとに、4コマCMをつくりましょう。 (1 時間)	○古いまちなみを生かす登米町について、調べたことをもとに4コマCMをつくる。 - 登米町には文化財がたくさんあり、「みやぎの明治村」とよばれている。 - まちの人々は、登米の歴史にほこりをもち、文化財や歴史ある景観を伝えている。 - 市や地域の人々がさまざまな立場で協力して、歴史ある景観を守っている。 - 登米町では、観光客を増やし、歴史ある景観や文化を未来に繋げるための取り組みをしている。 登米市登米町では、「みやぎの明治村」とよばれる伝統的な文化財やまちなみを守り、それらを生かしたまちづくりに取り組んでいる。 ⑦	◆学習問題を確認してP. 163「ことば」を使って、4 コマCM をつくるようにする。 ◆P. 139「まなび方コーナー」を参考に4コマCMをつくるようにする。	[知技②] 4 コマCM や発言内容から、「登米町の歴史ある景観や自然環境を生かしたまちづくりの様子を理解しているか」を評価する。 [思判表②] 4 コマCM から、「蔵王町の伝統的な産業や仙台市の国際交流、登米市登米町の歴史ある景観を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりについて考え表現しているか」を評価する。
単元全体のいかす	①県内の特色ある地いきのよさを伝えよう P. 164～165 県内の特色ある地いきのよさを、学校のみんなに伝えてみましょう。 (1 時間)	○これまでにつくった4コマCMや、学習で使った写真などを整理する。 - 伝統的な産業がさかんな地域 - 国際交流に取り組む地域 - 自然環境を観光などに生かす地域 - 古いまちなみを観光などに生かす地域 ○特色ある地域と自分たちのくらすまちを比べて気づいたことを話し合う。 ○学習で使った写真などの資料を生かして三角ポストをつくり、自分たちの県の特色ある地域のよさを発信する。 自分たちの県には、伝統的な産業や国際交流の取り組み、自然景観（古いまちなみ）などを生かしたまちづくりに取り組む特色ある地域がある。 ①	◆自分たちのまちと似ているところや違うところについて、これまでにつくった4コマCMや写真、地図等を活用して調べるようにする。	[思判表] 三角ポストの内容や発言内容から、「これまで学習した三つの地域を関連付け、それぞれの特色を生かしたまちづくりや自分が住んでいる地域の特色を発信するなど、自分たちにもできることを考え表現しているか」を評価する。 [態度] 三角ポストの内容や発言内容から、「学習したことをもとに、県内の特色ある地域のまちづくりを発信するなど、自分たちにもできることを考えようとしているか」を評価する。